

新校舎に サンタピット設置

日本航空専門学校



いよいよサンタが一年で最も忙しい日、クリスマススイブを迎えた。今年も捜索活動が佳境を迎える中、サンタ捜索チームはサンタ発見に有益な情報入手した。情報によると、千歳市にある日本航空専門学校は、今年完成した新校舎にサンタ専用の「サンタピット」を設置。多忙なサンタにつきあいの間の休息を取ってもらうべく、もてなしの空間を用意した。サンタピットの設置により、ついにサンタと遭遇できるのか。大きな期待が寄せられている。

23日、新校舎に「サンタピット」を設置したのは、総合航空教育機関の日本航空学園。北海道・山梨県・石川県・東京都に拠点をもち、パイロットや客室乗務員、航空整備士など航空業界に優秀な人材を多数輩出してきた。北海道では新千歳空

港にほど近い場所に日本航空専門学校のキャンパスがある。同校は2013年より、サンタ捜索チームからの協力要請を受け入れ、モーターグライダーやサンタ捜索専用セスナ機を使った空からの大捜索に参加。サンタの心を学ぶ「サンタの学校」や航空機によるサンタ誘導訓練の実施など、空を飛ぶ名人ともいえるサンタを授業にも取り入れてきた。サンタとの遭遇まであと一歩のところまで来ていることから、「サンタピット」

の設置は、同校の「サンタ活動」の集大成といえるかもしれない。今回、新校舎に「サンタピット」を設置した理由について、同校の梅沢忠弘（うめざわ・ただひろ）学長は、「サンタピットを設けたのは、国際航空ビジネス科が利用する新校舎です。ここは、客室乗務員やグラ

ンドスタッフを目指す学生がホスピタリティを学ぶ場。この場所でサンタをもてなすことが、学びにもつながると考えています」と語る。

新校舎は、温かみのあるインテリアで構成されている。「学生が息抜きできる空間となるように作っているが、サンタにもリラックスしてもらえれば」と梅沢学長は頬を緩める。



差し入れのクッキーとミルク

果たしてクリスマス夜の夜にサンタはこの場所に現れるのか。サンタの好物とされるクッキーとミルクを用意し、もてなしの準備は万端だ。

2カ国語を話すバイリンガル、3カ国語ならトリリンガル、4カ国語以上を使いこなせばマルチリンガル。全国的に外国人観光客が年々増加し続ける中、道内でも外国人と接する機会が増え、もはや日本語だけ話せればいいという時代ではない。小学校では3年生から英語の授業が始まっており、幼児向けの英会話教室も人気は上々。子どもが国際的に活躍する未来を夢見る親も少なくない。

英語、フランス語、スペイン語、中国語などの主要言語をはじめ6900種類も存在するといわれる世界の言語。世界を股にかけて活躍するなら、母国語以外の言語の習得は必須だ。そこで注目したいのが、サンタの語学力。世界中の子どもたちにプレゼントを届けるためにサンタが習得した言語は6000種類以上といわれる。クリスマス

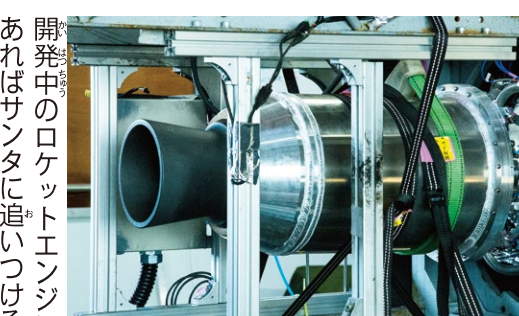
サンタ 検索 WEB

読みがな入り紙面が見られる！

http://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/

小型無人サンタ「あかはな」 探査ロケット

トナカイと同等スピードのエンジン開発



【大樹町】12月上旬、サンタ捜索チームはサンタを宇宙空間から捜索する小型無人サンタ探査ロケット「あかはな」を、インターステラテクノロジーズ株式会社と共同開発することを発表した。同社でプロジェクトマネジャーを務める植松千

春（うえまつち）はるさんが取材に応じた。サンタのソリを引くトナカイは、時速1500キロから3万キロで世界中の夜空を飛び回ると推測されている。植松氏によるとこのスピードはロケットが人工衛星を打ち上げる時の

スピードとほぼ同じだという。「あかはな」は、サンタが北海道上空を飛ぶ時間と軌道を読み、宇宙空間でサンタに接近する。サンタの動きを感じると、高感度カメラが作動。自動撮影された映像が地上のサンタ捜索本部へ届けられる仕組みだ。サンタの姿はこれまで影でしか捉えられなかったが、同じスピードで飛ぶロケットから撮影することでできる見込み。

植松氏は「探査ロケットの完成へ向けて必要なことは、夢を叶えるための強い意志を持ち続け、努力すること。ロケット開発は何度も実験を繰り返し改良を加えている。

企画制作／北海道新聞社営業局

この広告企画は、もともと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。次回（12月25日）朝刊掲載予定です。フィクションを多く含みますが、ご理解ご了承ください。

サンタはマルチリンガルの先駆け

前に世界各国の子どもたちから届く手紙一通一通全てに、サンタは目を通して、思われ、時には丁寧に返事をしたため。会話だけでなく、読み書きもできるサンタは超人的レベルのマルチリンガル。この高い語学力こそが世界中に夢を届ける鍵となっているかもしれない。

「世界を飛び回る仕事」といえば航空業界も同じ。客室乗務員を目指す日本航空専門学校国際航空ビジネス科では、語学習得に力を入れており、英語、中国語、韓国語をネイティブの講師から学び、留学制度も充実している。

北海道の空の玄関口、新千歳空港では、今月からフィンランドとオーストラリアへ、それぞれ直行便が就航した。北海道がますます世界とつながり言語の重要性も高まっている。さらにサンタの本拠地といわれるフィンランド便の就航で、またひとつ北海道とサンタの距離が縮まったといえる。

オープンキャンパスを視察か

教室奥にサンタらしき影

サンタまたも現る――。先月17日、日本航空専門学校で行われたオープンキャンパスに、サンタが訪れていたことが発覚した。当日、キャンパス内にある実習施設「キャンピントレーニング

センタ」を撮影した写真に、サンタらしき影が写り込んでいたことが判明。画像を解析したところ、赤い服に身を包み、真っ白なひげを蓄えたサンタに酷似していた。

これまでサンタ捜索チームに全面協力してきた同校。17年にもキャンピントレーニングセンタ内でサンタらしき影が撮影されており、サンタ捜索チームは「サンタはまたここに来

る」と予測していた。

同校はサンタのプレゼンテーションの配達を誘導する「サンタ・サポーター」にも取り組んできたため、今回の「来訪」について、同校の担当者には「入学を検討する高校生が集まるオープンキャンパス。サンタは自分をサポーターするかもしれない未来の人材を応援する気持ちで訪れたのではないかと推察する。

航空業界のプロフェッショナルを養成する同校のオープンキャンパスでは、「航空整備士体験コース」、「ハンドリング体験コース」、「客室乗務員・グラインドスタッフ体験コース」から高校生が興味のあるコースを選択。未来の仕事の思い描きながら一日を過ごした。

三田育三（みたいくさ）捜索チーム本部長はこの報告を受け、「サンタの活動が本格化する前の11月中旬に現れるのは異例。今年のサンタ捜索の状況を探りに来たのかも知れない」とコメント。クリスマスの夜の再訪に期待が集まっている。

国際航空ビジネス科の学科・留学制度説明を高校生とその保護者が聞く様子と、教室奥のカフェスペースに写り込むサンタらしき影

